

吾妻二丁目公務員宿舎跡地に関する説明会議事録

日 時：令和4年（2022年）4月23日（土曜日）10時～11時30分
場 所：アルスホール
事 務 局：つくば市 都市計画部 学園地区市街地振興課
参 加 者：24名

【学園地区市街地振興課長より説明スライドに沿って説明し、その後質疑応答】

（参加者A）

まず、お話にあったように、つくば市全体を次世代というかそういうまちにすることがゴールで、このプランのやりたいことはわかったんですけど、つくば全体の安全性ということが大事だと思うんですね。私、ここに住み始めて1年にもなっていないんですけど、面白い仕掛けというか工夫がいっぱいあると思うんですね。例えば、つくたくとかつくバスとか使いやすいシステムじゃないかと思うんですけど、地域全体のアクセスがより簡単になる仕組みを考えていく必要があるんじゃないかと思うんです。それで、1つ感じていることがあるんですけど、つくたくの地図を見ていただくと、政治学でいうゲリマンダーみたいですね。非常に複雑で、使いにくいところがあるので、統一的なシステムに集約というか、例えば、つくば全体を同一の金額で行けるとかいうことを強く希望したいと思いますね。つくば全体が移動しやすい、アクセスしやすいことで、個別の地域の魅力も増しますし、私たちの生活にもメリットがあると思います。この問題に関しては、全体的な方向はよいと思うんですけど、全体的にインテグレートした（：統合した、統一した、一体化した）まちを作っていたきたいと思います。

（市長）

つくば全体にという視点は、非常に重要だと考えていますし、今のお話はつくばとしても目指していく形そのものですね。70街区吾妻二丁目とつくば市全体との関連性を簡単に説明したいと思いますが、さっき申し上げましたけれども、ここはスーパーシティの中で、グリーンフィールドというある意味まっさらにしてそこから新しいまちを立ち上げていく実証実験の場所です。グリーンフィールドに対して、ブラウンフィールドというのがあって、これは要するに、すでに住宅地があったり、既成の市街地があったりする場所です。これら2パターンに分けて重点地区を作っているんですが、中心市街地はこのうちのグリーンフィールドで、ブラウンフィールドは筑波山の小田地区という歴史ある市街地と、もう一つが荖崎の宝陽台といういわゆる新しく数十年前に団地として作られて今かなり高齢化しているまちです。つくばが目指しているのは、グリーンフィールドでいろいろ新しい実験を積極的に、例えばドローンでモノを運ぶとか、完全な自動運転が70街区の中だけなら自由にでき

るようにするとか、そういうチャレンジな取り組みをここで試して、これなら安全そうだな、十分にできるなというので、宝陽台や小田で実際に使ってもらおうこと。グリーンフィールドで試したことをブラウンフィールドで行っていく。この辺ダメかなと思ったら、またグリーンフィールドで試す。そういうつながりをもって取り組みを進めていきたいというのが、このエリアの市としての全体の中での位置づけで、いまお話がありましたように、ここだけ良くなるだけではなくて、ここで試したことがつくば市全体に波及するようになっていきたいと思っています。そのうえで、つくバスのお話をいただきました。ゲリマンダーと言われてしまうと必ずしも政治的なもので切ったわけではないと思いますので、そのあたりは…。たしかにちょっと均等でないというか、どうしても詳細に設計していくとまったく同じようにはならないと思っているんですが、つくタク自体も実は大きな課題がありまして、1つは費用感なんですね。使っている方には、便利に使っていただいていますけれども、1回往復で使っていただくと、市としての持ち出しが5000円くらいになっていまして、それってちょっとしたタクシー券を配った方が安いんじゃないかなみたいな話にもなってくる。これ全国的な問題なんですけれども、出前タクシーの費用のことは。ですので、つくば市で今目指しているのは、例えば自動運転の一人乗りの電動車いすがありまして、そういうのでバス停まで自動で運んでくれて、そこから病院まで行ったら、またその病院で自動運転の車いすが診察室まで運んでくれる。その途中では、顔認証でチェックインとか済ませているので受付とか通らないようにして、会計も通らないでカードで引き落とすとかにして、そしてまた自宅に自動運転で戻ったら、ドローンで薬が運ばれてくるというような。ちょっと夢物語に聞こえると思うんですけど、実は、部分部分で技術的には実現できているんですね。自動運転のモビリティも、私、警察庁の委員になってようやく法改正が実現したんですが、そういうものであったり、研究学園地区ではドローンで食事を運ぶなど実験としては成立していたり、あとは病院のチェックインのシステムなども大体できている。あとは、それらをきちんとサービスとしてつなげていく。必ずしもつくタクを使わなくても、全部がスムーズにつながって、スマホで予約をするだけで行きたいところに最適な方法で、だれもが移動しやすいまちにしていきたいと思っています。もう少しお時間をいただければと思うのですが、ご指摘にあったとおり、インテグレートなまちにしていくというのは、そういうことだと思いますし、つくばがスーパーシティで目指すのもまさにそれです。もし、細かいスーパーシティのモビリティについての取組みとかご関心ありましたら、今日はスーパーシティを担当しているスマートシティ戦略課長も来ていますので、追加でご質問があればどうぞ。大丈夫でしょうか。

(参加者 A)

いろいろとありがとうございました。既存のシステムより着実に進歩しているということで、なるべく簡単で効率的なものというか、そういうものを実現していただきたい。だれもが使えるようなものを整備していただくようお願いいたします。

(参加者 B)

この街区の話、市長からグリーンフィールドの話であるとか、最初の説明ではどんな感じでできるのかわからなかったことも、今のご回答で分かるようになったこともありました。非常に素晴らしい計画をお持ちなのかなという気はするんですけども、スーパーシティ構想のモデル街区って言っている以上、市としてこんな形にするんだよという具体的なイメージを持っているはずなので、それをもう少し説明していただければなというのが1つ。それから、時期的な問題ですが、時期は未定ということで聞いているんですけど、吾妻二丁目は隣接街区でして、あそこがスラム化しているの、地域の安全という意味で非常に不安なところなんですよ。あそこを通過して帰るといのは、子どもや女性が非常に不安を持っているところです。構想は、実現するのにある程度時間がかかりますし、都市計画変更していくとなると時間がかかると思うんですが、計画はちゃんとスケジュールを立てて、時間軸を持ってやっていく必要があると思いますので、そこはできるだけ早くやったほうがとりたいところなんです。現状を見ていただくと分かりますが、非常に危険ですので、早く計画を立てて素晴らしい街区になると期待しながら待ちたいなと思います。わたしは商業施設ができればいいなと思っていますけれども、市でどんな計画を持っているのかということ、スケジュールも含めて教えていただければと思います。

(市長)

まず先に、スケジュール感や地域の安全という面にお答えして、あとでスマートシティ戦略課長からスーパーシティや70街区の具体的なお話をできるところまでしたいと思いません。

昨日の説明会で、公務員宿舎の現在の状況が心配だという声をたくさんいただいたんですね。私自身、並木に子供のころから住んでいたんですけど、少し前に並木の公務員宿舎を歩いて確認をしたんですが、ご指摘いただいたような状況を改めて痛感しました。子供のころよく通っていた道に木が茂ってしまってもはや通れないような状況で、治安上の課題が大きいなということを感じております。市としてすぐに売却しないでとっていただいているものなので、苦しい立場もあるんですが、所有者の皆さんに管理はきちんとお願いをしたいなということで、昨日も少しお話をしたんですけど、安全性を高めるためにもう少しこうしてほしいという協議・ご相談を個別にそれぞれの所有者にきちんとしていく必要があるなと思う。今までは管理を適正にお願いしますということは依頼してきたんですが、個別具体的な話にしていく必要があるなと。おっしゃられたように、時間はかかりますが、現状放置できないということは強く感じますので、個別に協議を開始していきたいと思えます。スケジュール感については、売却の部分は財務省の方針によっても変わってきますけれど、サウンディング調査や皆さんからいただいた結果をもとにして、国とこういうもので条件をつけていくことが望ましいんじゃないかという議論を、今年度徹底して詰めていき

たいと思っています。そして、スケジュール感が合えば、来年度公募というか、国のシステムの中にはプロポーザルがないので、二段階入札で売却をして、事業が進んでいくというのが一つのスケジュール感だと思っています。

1つ目の質問については、簡単に言うと、先ほど申し上げたひとつの小さなまちを作るんですけれど、市としてこういう風になったらいいなというのは、まだイメージ図を描いているわけではありませんし、いろんな企業の皆さんから様々な提案をいただきましたが、その詳細は企業の皆さんからまだ言わないようにとそういう制約もあったりするので、話せる範囲でスマートシティ戦略課長お願いします。

(スマートシティ戦略課長)

本日はありがとうございます。スーパーサイエンスシティにつきましては、先日4月12日に閣議決定されまして、国家戦略特区の指定を受けることとなりました。この取り組みですが、今日は吾妻二丁目ということですが、少し議論が発散しないように気を付けながら申し上げますと、つくば市には今3つの大きな問題があると考えておりまして、1つは、都市と郊外の二極化という問題でございます。これは、この辺を都市部といいますと、周辺部が郊外ということになります。こちら高齢化がかなり進んでおりまして、ご高齢の方が病院や買い物をして都市部に移動するのに困難なため、自家用車を運転される高齢者も多いという問題でございます。もう一つは、多文化共生への対応の欠如という問題がありまして、これは行政の問題でもありますが、外国人の方が約1万人140近くの国々から市内に来られています。それから、学生さんが1万8千人くらい、研究者の方も2万人ちょっと、TX沿線には子育て世代の方がたくさん移住されているという現状で、多文化・多様性が進んでいる都市ではございますが、行政から発信した情報がお手元まで届きにくいという現状がございます。それから、3つ目はインフラの老朽化でございます。研究学園都市ができて約60年経って、当時できた施設等が老朽化しているということで、デジタル技術やAI、ロボティクスを活用して解決できないかと探っているのが、スーパーサイエンスシティ構想でございます。先ほど市長からもお話ありましたように、こういった問題を解決するために、いろいろな事業者・大学研究機関の皆様と議論しながらサービスを作っていこうということでございます。グリーンフィールドというお話ありましたが、まずは、そちらで実装させてフィードバックをいただきまして、その結果を小田や宝陽台といったところから始めて、実際にご高齢の方や外国人の方の課題を解決していこうという取り組みがございます。具体的なスケジュールやイメージは、70街区につきましては、事業者様が最終的に開発されると聞いておりますので、最終的には、その事業者様と協議しながら進めていかなければならないところです。あと、サービスを作る事業者様もおられまして、その方たちとも協議を進めているところでございます。スーパーシティのスケジュールにつきましては、いま国のほうでつくば市をどのようなスーパーシティにしようかというビジョンを作成しております。それができた後、国のほうで推進する主体、区域会議といいますけれども、こういっ

た会議を立ち上げて計画を立てていくというところまでございまして、今、具体的に何年何月にこれをするといったスケジュールまでは落とし込んでいないところでございます。ですので、開発される事業者様、それからサービスを作る事業者様の 2 種類の事業者の方たちとこれからよく詰めていくという段階かなと認識しております。以上でございます。

(市長)

具体的ではなく、少し抽象的になってしまったかもしれないですが、およそそういうことを考えていまして、例えばですけど、一般論としてのスーパーシティでいくと、70 街区には住宅地もないと民間企業が参入できないので、例えばマンションや商業施設、イノベーション拠点、クリニックなどがあってという中で、マンションに住む方は、商業施設のものにはスマホで注文ができ、敷地内ならドローンでベランダまで運んでくれるというようなサービスや、このエリアの中は完全自動運転でモビリティが動いて、移動が不自由な方でも自動運転で移動していけるというようなサービスを、できるだけ詰め込んでいく。例えば、健康状況とか心拍なども提供すると自分に合った食事メニューが届くなども。そういうことを複合的にやる場所にしたいと思いますが、事業の採算性もありますので、その辺含めて詰めていきたいなと思います。そういったことを含めて、関心を持っている企業などが複数いらっしゃるという状況です。もう少しすれば、国との協議の上で、例えばこんなまちというようなイメージを作れば良いと思っていますが、逆に言えば今、皆さんからご意見をいただいて国に伝えていく段階ですので、こういうの必要ではないかというようなことがあればどんどんご提案いただければと思います。

(参加者 B)

ご説明ありがとうございました。最後に一つだけ注文を付けさせていただきますが、70 街区の中の話はよく分かったんですね。それが実現すれば、非常に 70 街区にとってはいいかなと思います。けれども、今日の説明の中で物足りなかったのは、近隣に配慮しますという文言がでてきていたが、近隣といってもそれは小学校だけだったんですね。けれど、そうじゃないでしょと言いたいですね。70 街区でできるサービスの一部でも隣接地区に波及できないかということをお願いしたいと思います。「70 街区、素晴らしい街区ですね。」それで終わってしまったら、改革も終わってしまうんですよ。そうでなくて、地域に波及させる。少し染み出していく。そういう計画を立てていただかないと、そこに良いものができるも全然我々にとっては「利便性上がらないよね」で終わっちゃうんですよ。そうじゃないだろうと思いますんで、隣接街区も含めたところ考えていただいて、計画を作っていただければなと思います。それから、時期的な問題は、草刈りをしっかりやれば安全性に配慮できるというものではなくて、賑わいが少ないことが、安全性を失っているということですので、早く計画が立ち上がって、実現できるようにお願いします。

(市長)

ありがとうございます。我々としてはもちろん、ここだけで終わってしまっただけでは、それは何の意味もないことになってしまいますので、できるだけ近隣の住民の皆さんともお話をしながら、こういうのがあったらいいんじゃないかなということをご相談できればと思っていますし、昨日も話題に出たんですが、(スライドの地図を指して)この地図もう少し広域のものにしていただけますか。これで言うと、つくば駅と書いてあるところの左端のところ、いまダイワハウスが持っているんですけども、ここも開発が今後進んでいく予定です。ここについては、70 街区までつなげていく必要があるんじゃないかという話がありまして、我々が目指しているのは、決してその街区で閉じてしまうものではなくて、つくば中心市街地のまちづくりビジョンというものもありますけれど、それぞれの場所が役割分担をしながらエリアとしてつながっていくことを目指していますので、ぜひ近隣の方も使えるものから使っていただけるようにしていければいいなと思っています。ですので、まずはきちんとスケジュールを出して進めていく。それは国ももちろん意識してくれていますので、頑張っていきたいところです。

(参加者 C)

ご質問の機会をいただきありがとうございます。非常に初歩的で申し訳ないですけども、計画の中で何度も出てきたイノベーション施設というものについて、具体的にどういうものでどういうことを狙ってつくるものなのか、具体例とか挙げて説明をお願いしたいです。

(市長)

ありがとうございます。例えば、つくば市の姉妹都市のボストンのケンブリッジという市に、スタートアップ企業がたくさん集合しているビルがあります。そこには、研究開発系の企業や、新しい情報系のサービス企業、研究機関の窓口的な施設があって、そこに投資家なども入って、様々なつながりを持ちながら新しいビジネスやサービスを作っていく一つのコミュニティのような建物で、ケンブリッジイノベーションセンターといいます。それが日本にもこの間虎ノ門ヒルズの中にできました。そこでは新たなイノベーションをどんどん生み出そうということで、なんでイノベーションが生まれるかということ、いろんな人たちがそこで対話をしたり、集まったりしながら、新しいサービスを考えていったり、新しい技術の組み合わせを考えていったり、投資も含めて呼び込んでいくということによりできていくので、そういった場所を研究機関も含めてつくばに入ってくるようにすることで生まれるだろうと。さらに、特に海外で、例えばボストンで盛んなのは実際に実験をできるラボですね。大学とか研究機関に所属していれば、研究はできるんですけども、新しく研究機関から独立していこうとする人たちは、自分のサービスを作りたい、実験をしたいという際に、自分でそんな設備を揃えることはできませんから、研究機器の共有などをして、いわゆるウ

エットラボという実験施設が、ボストンなどでは入居待ちになるくらいで、そこから新しいイノベーションがどんどん生まれていくという循環がありますので、例えばそういう実験も含めて行えるような場所を作っていくと。そういうことが、このイノベーション施設のあくまでもイメージですけれども、今の考えているところです。そこにスタートアップ関係、つくばで言えば、つくばスタートアップパークというのがありますけれども、それももう入居待ちになっていますので、そういう企業が入れる場所を含めてですね。そんなまちにしたいと。ひとつのところにいろんな人たちが入って行って、コミュニティができてというイメージとっていただけるといいのかなと。なんとなく伝わりますでしょうか。

(参加者 C)

ありがとうございます。よくわかりました。今後期待しています。

(参加者 D)

この度はありがとうございます。前の方に引き続いて、イノベーション拠点についてご質問させていただきたいと思います。先ほどの事業者アンケートの中で、イノベーション拠点と事業継続性とか採算性についてかなり懸念を持たれている事業者様が多いなという印象が感じられます。2020年1月に行われたつくば市中心市街地まちづくり調査特別委員会のエリアマネジメント団体に関する資料を拝見させていただいたんですけれども、こちらの中で、つくば市におかれましても採算性について懸念を持たれていて、官民連携すべき事業という認識を持たれていると理解しております。70街区において今後、民間事業者が開発するにあたって、つくば市、あるいはつくば市が関係するまちづくり会社などという組織がイノベーション拠点の運営にあたって、どのような補助をされていくのか、それともしないのか、そういうところをお聞かせいただければなと思います。

(市長)

ありがとうございます。非常に重要な点でして、我々もこれを民間でそのままやっていくのは難しいと思っていまして、例えばつくば市のスタートアップパークというところも、行政で運営をして管理を民間に委託しているわけです。こういう拠点は、世界どこでも行政など公的な支援が入っていくということが一つの条件ですし、そこで支援を十分行政が財政的にしたとしても、そこから将来的に生み出される税収とか、短期の視点ではなくて長期的な視野を持って投資をしていくということが行政には求められていると思っています。市としても、具体的なことは実際に事業者と協議し、例えばどういう支援が必要ですかというようなことをきちんと把握していくことが大事だと思っていますけれども、市のあるいはスーパーシティの街区として行っていきますので、補助的なものなのか税の減免なのか、あるいは建物を市や県などで借り、そこをさらに貸していくのか、いろいろなオプションがあると考えています。ただ、それは実際にもう少し国と協議をしていきながら、最初の時点で

どういふ支援を市がしていくかということで、エコシステムと呼ばれる先ほど紹介したような取り組みがつながっていけば、財政的にも自立していくと思いますので、その期間ですね。例えば何年間とか十年間とか、そういう風に区切ってこういう支援をしますということをおそらく公募前に示さないと、民間事業者もなかなか手を挙げづらと思いますので、それはこれから皆さんにご意見をいただきながら、国も県もそういったものに力を入れていかないとということで一致していますので、よく相談をしながらそのプランを練っていきたいと思います。すみません、ちょっと具体的な言葉で踏み込めなくて申し訳ないですけども大丈夫でしょうか。

(参加者 D)

大丈夫です。

(参加者 E)

時間がないので早口で申し訳ないです。要望は1つと、質問が2点あります。要望はまず、公務員宿舎の景観をきちんと守ってほしいなという話です。計画がいろいろとあるみたいですけども、やはりマンションがあつたり一戸建てになつたりで緑が失われたという話はよく聞く話です。もし70街区でもそういった形になったときに、結局保ってきた景観がなくなっちゃったねとなると、大きい損失かなと思います。例えば、ドローンを導入するために木を全部切りましたとなると、それは値打ちが下がる話かなと。こういう景観を活かしつつ、イノベーションの実装を図るといふのはすごい値打ちなのかなと。そこはぜひ考えていただきたいというのが1つ。あと質問が2つありますが、1つは、中心市街地まちづくり戦略のイノベーション拠点の導入エリアとしては、今回の70街区以外に吾妻幼稚園の周辺も戦略の中では位置づけられていたと思うんですが、そのあたりに関してはどうなっているのでしょうか。あともう1つは、さっきの学生さんも質問していただきましたが、行政の関与のところですね。サウンディング調査の中身を拝見すると、行政の関与が必要だという声が多数です。民間に聞くとそういう答えになると思うんですが、どれくらい市がやるかというのは、先ほどの答えだと事業者とすり合わせてということでしたが、どれくらい市が持ち出すつもりなのかを考えなければ、賛成も反対もしょうがないんですね。このあたりについてもお示しいただければと思います。

(市長)

ありがとうございます。景観というのは非常に大事だと思つていまして、私自身、昨日もお話ししたんですけども、市役所の中でも私が一番街路樹原理主義みたいところがあつて職員も困っているんですけども、就任してすぐに、このエリアの街路樹全部切られようとしていたんですね。工事の発注まで進んでいたんですけども、実際に日本造園学会の会長さんなどと道路を歩いて、「いやいやだめでしょう」ということで、その計画全部取り

やめて、例えば根腐れして倒壊の危険があるとか、視界に入ってしまう交通事故が多発しているとか、そういうもの以外はすべて残すという方針にして、一つの通りだけで百数十本維持したので、おそらく全部でいうとかなりの本数維持できたんです。それは市道沿いの街路樹だからなんとかなった話なんですけど、公務員宿舎の緑地というのは、民間事業者からすると、大きな木が残っていると開発できるところが減ってしまってコスト的に厳しくなるということがありますので、ほとんどのケースで切られてしまうのが現実です。ただですね、最近嬉しい事例があって、並木の事例なんですけれど、並木のペDESTリアンデッキ沿いに新しくカスミがオープンしたんですけれど、今までであれば、カスミ側に越境しているので切らなければならない街路樹だったんですけれども、長年愛されている景観を作っている街路樹なので残させてほしいとお願いをしたら、さすが地元の企業ですのでよくご理解いただいて「わかりました。残すのに協力する。そういう価値を一緒に作っていきたい。」ということで合意してくださったんですね。だから今残っているんですけれども、そういうことについては、私権が強いのが日本の法体系ですので、そこに条例を作るなどして入っていくのは難しいんですけれども、粘り強く働きかけを続けていく努力をこれからもしていかなければならないと思っております。それから、先ほどの1問目の質問については学園地区市街地振興課長からお答えしますけれども、2点目の行政の関与という部分につきましては、おっしゃる通りで、賛成も反対もできないだろうと思っておりますし、現実問題として私たちもまだ決まっていません。これから当然議員の皆さんともお話をしていきますし、いろいろ県や国と協議をしていくので、そういう中で、例えば金額はどれくらい、そのことによって何年するからこれくらいは継続した支援が必要だろう、その投資をすることの価値はこれくらいだろう、ということをいろいろなプロセスで皆さんに開示していきたいと思っております。逆に言えば、賛成とか反対とか求めているものでもありませんので、ご意見を踏まえて、これからプランを作っていきたいと思っております。1点目のご質問は、学園地区市街地振興課長から。

(学園地区市街地振興課長)

1点目の質問なんですけど、おっしゃる通り、まちづくり戦略の中では70街区から中央公園を挟んで東大通り側の90街区と呼ばれるところもイノベーション拠点ということで位置づけしていました。これは、中心市街地まちづくり戦略作成当時の状況としまして、隣にある筑波大学の宿舎跡地についての計画が不確かだったこと、当時、国とは70街区や90街区を含めて調整をしていたということで、候補地として色付けはしていましたが、90街区につきましては、70街区のような利用ということではなくて、住宅地の需要しかないだろうということで、現在はほかの公務員宿舎と同じように住宅としての利用を検討している状況です。当時は未確定な部分が多かったのだというところでございます。

(参加者F)

単純に、70 街区にあったらいいなと思うものを 2 つ考えてきたんですけども、1 つは、マンションがたくさん立っていますので、老人をターゲットにした老人ホーム的なマンションがすごく欲しいと思っているんですね。病院とか筑波大とかメディカルとか色んなところに恵まれているので、そういうところであれば、さっきのお話にもあったドローンで玄関に食事を運んでくれたりというのになおさら良いのかなという風に考えています。今マンションが建っているところって 3LDK、4LDK ですごく大きくて子育ての人を中心に立てているマンションが多くって、老人は断捨離をしますので、何もいない。ほんとに寝るところとお風呂とトイレとコーヒー一杯飲めればいいかなという感じで作っていただければ、これからすごく楽しい生活が老人としては待っているんじゃないかなと思うんですね。あと 1 点は、今図書館が一つあるんですけど、かなり老朽化が叫ばれていて、作ってくれるんだったら図書館がいいかなと思うんですね。みんなが共有して使えるところに子ども食堂とかを作っていただけたら、ボランティアで働きたい人はいっぱいいると思うんですね。そういう人が研究学園の中では目立たないと思うんですけども。そういう子ども食堂などを抱き合わせで図書館と作っていただくとすごくうれしいと思います。時間が足りませんので、ここで終わりにします。

(市長)

ありがとうございます。住宅エリアを高齢者向けに振るかということ、まだそこまではなっていないと思いますが、おっしゃるように、いろんな世代の方がここに来ていいなと思ってもらえるようにしたいと思えますし、スーパーシティの中でも非常に大事なものは、健康とか医療とつなげていくことが一つの柱になっていますので、このエリアでもそういったサービスが受けられるような形での実装は目指したいと思っております。あとは、どういう形のものにしていくかというのは、いろいろと協議をしていくと思います。図書館という話がありましたが、確かに図書館はですね、つくば市の図書館としては小さいだろうなということを感じておりますが、現在つくば市の図書館につきましても今後のビジョンを示しております、この図書館をどう機能拡張していくかということなんです。例えば、図書館の中もリニューアル必要だと思っているんですが、構想の中で...エリアの写真とか出ますかね...、今中央公園が映っていて、その前に図書館があるわけですけども、つくば市の計画で目指しているのは、ライブラリーパークという中央図書館と中央公園に一体的なつながりを持たせていく仕組みを作ること考えていますので、なかなか 70 街区に図書館というのは難しいかとは思いますが、例えばですけど、図書館の本もドローンで届けられるようにとか。公園でゆっくり過ごしていただくほうがいいのかなとも思いますけれど、そういう中で子ども食堂なども、おっしゃる通り、いろいろとお手伝いしたいと思ってくださる方々は非常にたくさんいらっしゃると思いますので、そういう情報をどんどん出しながらですね、まさに、自分がただサービスを受けるだけではなくて、私が目指しているのは自分もできることをいっしょにやろうと、ともに創ると私言っていますけれども、そういうまちを目指しています

ので、ぜひいろんな機会に皆さんがボランティアに入りやすいきっかけを作っていきたい
と思います。ご意見ありがとうございます。

(参加者 G)

緑地環境の保全という話が市長からもありましたけれど、国有地の売却に際してつくば
市としてルールの中で注文なり要望をしたいということはわかりましたけれども、全部
切ってしまうというケースが私の周りでも多くて、なんとかならんかなと。国有地ですから
あまり厳しくして入札者がいなくなったら困るという説明もありましたけれど、売却価格
だと思っんですよね。条件を付けることで、結果的に売却価格が下がるかもしれない。一方
で、グリーンを持つ防災系機能等を活かしていこうというグリーンインフラも大事な国策
として浮かび上がってきていますから、結果として目先の売却収入が若干減ったとしても、
そういう条件を付けていこうという願いをしていくことは、つくばだからこそ国として
はそういう英断をしていくことはあり得るんじゃないかと思っんですが、いかがでしょう
か。

(市長)

おっしゃるとおりだと思います。グリーンインフラはつくば市でもいろいろと取り組み
始めているところなんですけれど、私がなぜ街路樹にこだわっているかということ、それは間
違いなくまちの資産だからなんです。新しいまちがTX沿線で立ち上がってきていますけ
れど、どう頑張ってもつくばのような街路樹は作れないと。それはつくばのまちとしての成
熟を表すものですし、景観にプラスの価値を与えていると思いますので、なんとかできる範
囲で維持したいと思っっていますし、今、国のほうも国交省や環境省などはグリーンインフラ
への投資を考えてきていますので、そういう視点については当然国との協議でもしっかり
と話をしていきたいと思っっています。こういった説明会でも意見いただいたというのは国に伝
えるメッセージになるので、必ずやっていきたいと思っっています。ただ、どこまで協力いた
だけるかは財務省との調整になると思っっています。私たちにとっては二段階入札を検討して
くれているのも極めて画期的なことだったので。ただ、ここで満足せずに緑の価値というのを伝
えるというのも、できる限りやっていきたいと思っっています。応援いただけるとありがたいです。